

第 11 回「日本語大賞」

テーマ「おもしろい日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「つまらないって」

神奈川県
湘南ゼミナール 日吉教室
小学6年 伊部結衣奈

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

つまらないがつまらないのかな。そう思ったのは、四年生のころだった。

私は算数が嫌いだ。口には出さなかつたけれど頭の中ではずっと「つまらないな。」と思っていた。そんな時にある人が「ああ、つまらない。」と小さな声でつぶやいていた。きっと、だれにも聞こえていないと思うが、私には聞こえた。「私も声に出して言ってみようかな。」そう思った。でも、なんだか「つまらない」の言葉がかわいそうに思い、声に出さなかつた。「つまらないがつまらないわけじゃないのに。」そんな事を家に帰ってずっと考えていた。つまらないはどうしたら喜ぶのかな。つまらないは私達にどう使ってほしいのかな。私はまるで「つまらない」の言葉が生き物かのように考えた。言葉は生き物ではない。だから、心もない。そんな事は分かっている。でも、「つまらない」は今、悲しいのではないか。そうとしか思えなかつた。次の日から私は、「つまらない」に喜んでもらうためにつまらない事でも「つまらない」と思わず、「楽しい」と思うように意識した。嫌いな算数も頭の中で「楽しい」とずっと思うようにした。それから約一週間、私はこの一週間があつというまに過ぎた事に気づいた。きくとそれは毎日楽しかったからだ。算数も「楽しい」と思えばなんだか本当に楽しい気がしてきた。

「つまらない」私はこの言葉が「楽しい」の脇役、つまり引き立てるための言葉だと考えた。「つまらない」と「楽しい」は真反対の言葉だ。でも、この二つの言葉は繋がっていて、「つまらない」がいるから「そ」楽しい」が引ききたつのだと思う。

ああ、「つまらない」ってなんて面白いのだろう。「つまらない」が何のためにあるのかを考えれば考えるほど面白い。この面白さが、少しでもだれかに伝わってほしい。